~~大波 文学と文壇の壇~~

~~埴谷雄高~~

まだ

文壇は崩壊した、とこれまで幾度かいわれたが、何度いわれても、決してなくならないのがこの特殊な共和国のようだ。

文壇は崩壊したといわれたのは、純文学と通俗小説とのあいだの境界がなくなったことを取りあげての発言だったが、しかし、通俗小説との野合によって文壇という領域がひろまっても、その特殊な共和国の性格が変ってしまったということにはならなかったのが、実状だった。文壇の垣根は依然としてあり、やはり排他的な部落という基本的性格は変っていないのである。

の垣

島尾敏雄は、現在、日ソ文学シンポジウム出席のためソビエトに行っている。島尾と新日本文学会との結びつきも奇妙なものだが、だいたい、島尾は、第一次戦後派と

日本放送出版協会（20×20）

テープとモニターを文化整理へ返す

文化